

私のお父さん

増田^{ますだ} みつは

「お父さんの髪の毛は書かないの?」

幼稚園の時、家族の似顔絵を書く時間に、友達に何回も聞かれていました。悪気がないのはわかってましたが、なんだか、責められているような気がして、その時の私は、返す言葉がありませんでした。その日、似顔絵を書いた画用紙を家に持って帰り、お父さんとお母さんにそれを見せ、今日友達に言われたことを泣きながら説明しました。その日からお父さんは出掛ける時は必ず帽子をかぶるようになりました。

私のお父さんはお坊さんです。今では髪の毛の長いお坊さんもあるけれど、お父さんは必ず髪の毛を短くしています。どうしていつも髪を短くしているのか、とお父さんに聞くと、「この方がお坊さんらしくて、衣が似あうやろ。」と、言っていました。でもその時の私は、お父さんの言っている事がよくわかりませんでした。

お父さんの仕事は、お家に月参りに行ったり、法事の時におつとめをしたり、年中行事で、だん家さんと二しよにお経を唱えたりします。だん家さんがなくなった時は、家に行っておつとめをし、おそう式をします。

でも、それだけではありません。お坊さんの仕事って何なの?と聞いてみると、

「みんなが幸せになるように願うことやで。人間は一人では

生きていけないやろ。みんなで助けあいながら生きるためには、明るく、正しく、仲良く、の仏教の基本的教えが大切なんですよ。このことを伝えていくのがお父さんの大切な仕事なんや。」と、言っていました。私は、そんなお父さんをすごいと思いました。よく人は、家族のために働くというけれど、お父さんは、家族のためだけではなく、世の中のみんなのために働いていると思っただけです。お父さんにそう言うと、

「お父さんだけではなく、世の中の人、みんなが、家族のためだけではなく、だれかの役にたっているし、だれかのために生きてるんだよ。」

と言っていました。私もだれかの役に立ってるんだな、と思うと何だかうれしくなりました。その言葉が私の心の支えになつていきます。

そう教えてくれたお父さんに、心からありがとうと言いたいです。

小さい時にあれだけ気になっていたお父さんの髪がたが、今ではあたり前のように思えます。何も言わず、帽子をかぶってくれていたお父さんの優しさに改めて気付きました。

あの時は、何も言えなかったけれど、今では、はっきり言えます。

「私のお父さんは、お坊さんやから、髪が短いねんで。」